

☆聖書で祈る☆

1 コリント3：1～9 「神のために力をあわせて働く」

1:兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように語る事ができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。2:わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にすることができなかつたからです。いや、今でもできません。3:相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。4:ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。5:アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分に応じて仕えた者です。6:わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。7:ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。8:植える者と水を注ぐ者とは一つですが、それぞれが働きに応じて自分の報酬を受け取るようになります。9:わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

▽参考資料▽

使徒職教令 10 (教会の諸団体)

小教区は団体的な使徒職のすばらしい模範を示す。そこでは、それぞれ違った人々を一つにまとめ、それを教会の普遍性に織りこんでいる。信徒は、自分たちの司祭と緊密に一致して、小教区のなかで働く習慣を身につけるべきである。自分の問題や世の中の問題、さらに人々の救いに関する問題などを互いに話し合っ て研究し解決するために、小教区の共同体にもちよるべきである。また、自分が属する小教区の使徒的、布教的なすべての仕事には、できるかぎり協力すべきである。

『アジアにおける教会』第22項、第45項

(福音のインカルチュレーションは神の民全体にかかわることですから、信徒の役割が非常に重要です。) 社会を変革する召命を受けているのは、だれよりもまず信徒なのです。司教、司祭、修道者と協力して、自分たちが生活している世俗社会の構造、法律、慣習、精神性に「キリストの心」を注ぐことによって、信徒は社会を変革します。

・・・信徒が、この世の知恵と有能さだけでなくキリストの真理によって刷新され強められた心をもって現代世界の諸問題に直面する福音宣教者となるよう養成するのは、司牧者の務めです。信徒は、社会におけるあらゆる生活領域で福音をあかししつつ、不正と抑圧を根絶させる独自の役割を果たすことができますが、このためにもまた適切に養成されなければなりません。